



# 筑西労基署 広報

第29号

平成22年9月8日

編集発行：筑西労働基準監督署

筑西市下中山581-2

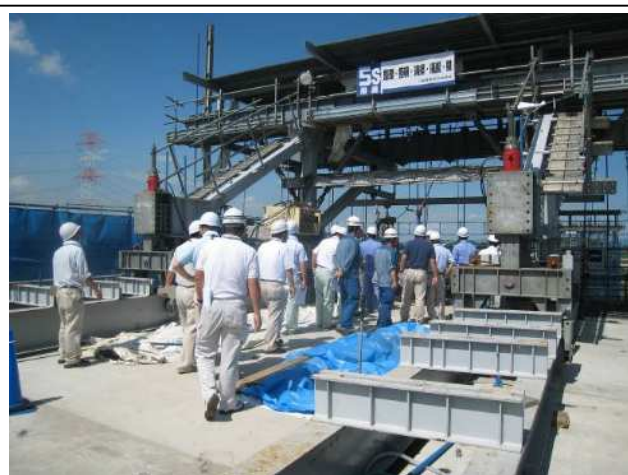
0296(22)4564

## <安全衛生の取り組みを“評価”する制度の導入を要請 / 公共機関発注者連絡会議>

8月3日、平成22年度の公共機関発注者連絡会議を開催しました。会議には、国・県の出先機関、市町村の工事発注責任者など9機関21名が参加し、各発注機関による安全衛生に関する取り組みや、公共工事の発注に関して入札企業の安全衛生に関する取り組みを評価する入札制度の導入等について協議しました。

監督署からも先行する例として、入札において、事業者が自主的に実施するリスクアセスメントを加点評価している機関があることなどを紹介し、各機関での検討をお願いしました。

会議は毎年実施していますが、今回はスタイルを変えて、現在川田建設㈱が施工している「鬼怒川新橋」の工事現場を視察しました。同社の監理技術者である高野氏より現場の安全衛生活動の説明があり、参加者からも質問が寄せられていました。



(写真の説明)8月の炎天下、橋板上の気温はWBGT指標計で32（通常の寒暖計では35を超えます）を示していました。現場では熱中症対策にも力を入れ、橋板上にエアコンが効いた休憩室を設けたり、熱中症予防用の「塩熱飴」などを配備していました。

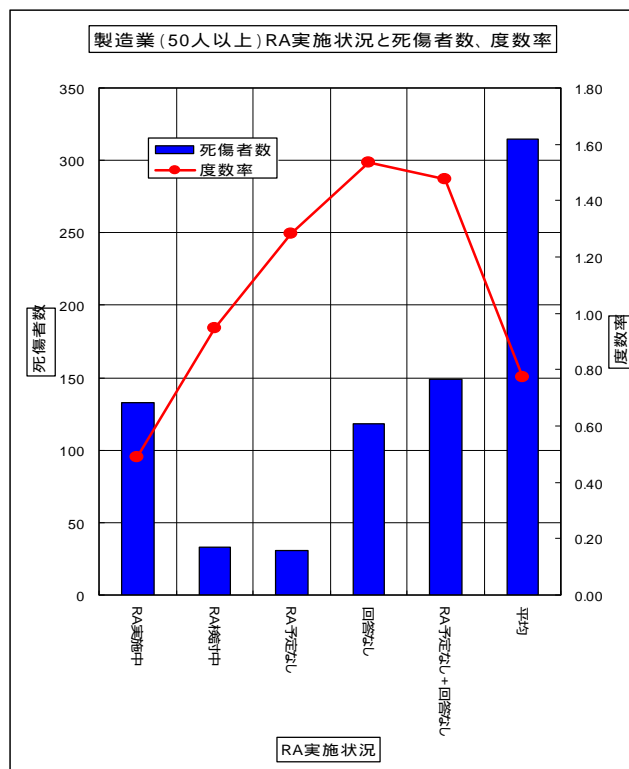
## <リスクを客観的に評価することで災害発生率が低下 / リスクアセスメント説明会>

「リスクを客観的に評価している事業場」においては災害発生率が低いことが、これまでもわかっていましたが、茨城労働局の調査(H22年3月)でも、リスクアセスメントを実施している事業場の度数率が低いことなどが確かめられました(右グラフ)。

こうしたことを受け茨城労働局では、県内5か所で「リスクアセスメント説明会」を開催することになり、8月25日、労働安全コンサルタントの甲斐洋氏を講師に、筑西市の生涯学習センターで「説明会」が開催されました。

約40名の参加者は、リスクアセスメントの意義や課題、導入の手法等について講義を受けた後、イラストを使った演習等に取り組みました。参加者は、

「災害防止に効果があり、有効な手法だと理解できた。(リスクアセスメントを)もっと広く知らせて欲しい。」と語るなど、本年中の実施を目指しています。





【解説】上グラフは、左からリスクアセスメントを「実施中」「検討中」「実施予定なし」「回答なし」等の順に、災害度数率(赤線)を示したもの。「実施中」の事業場で度数率が一番低く、「回答なし」で度数率が一番高いという結果となっています。このことから、リスクアセスメントは災害防止に対して一定の効果があることが伺えます。(度数率:100万労働時間当たり発生する休業4日以上の死傷者数)  
(左写真は演習の様子)

## 話題～管内企業 安全大会等 の様子をご紹介します part 3～

『目で見て職場の異常がわかる』ことでレベルアップを図る / 日立化成工業(株)下館事業所

6月24日(木) 日立化成工業(株)下館事業所で、安全発表会が開催されました。全国安全週間行事の一環として行われたもので、OSH-MSによるリスク低減について合計8件の発表がありました。

同社では、『目で見て職場の異常がわかる』ようにすることでレベルアップを図り、安全衛生の向上に結び付けたいとしています。【右写真。右下は協力会社を招いての安全協議会開催の様子】



### 好事例のご紹介

#### 溶剤の空き缶に特製のフタ

(株)フジシール(結城市)では、有機溶剤の蒸気を発散を防止する対策として、一斗缶の上部の形状に合わせた金属製のフタ(オリジナル)を作成しました。これまで缶の上部から有機溶剤の蒸気が作業場内に拡散していましたが、これより有機溶剤の拡散がなくなり、周辺での臭いも少なくなりました。



### 新しい安全衛生旗を掲揚



筑西労基署の入口脇に掲揚されている安全衛生旗の痛みが目立つようになったため、筑西労働基準協会から新しい「安全衛生旗」をご提供いただきました。

(写真は掲揚した時の様子です)

### 【お知らせ】

筑西労基署広報は、茨城労働局ホームページ(下記)でもご覧になれます。

[http://www.ibarakiroudoukyoku.go.jp/corner\\_kantoku/index.html](http://www.ibarakiroudoukyoku.go.jp/corner_kantoku/index.html)

